

地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) —行政との連携進捗状況—



上都賀郡市医師会の取組みについて

岡医院（上都賀郡市医師会） 岡 宗男

1. はじめに

県西医療圏は鹿沼市と日光市で構成され、その面積は県全体の30%以上を占める広大な地域である。特に日光市はその面積では全国3番目にランクされる地域である。その高齢化率、人口減少率共に全国平均を大きく上回っており、在宅支援診療所の数は2ヶ所、在宅療養支援病院数は無し、24時間対応の訪問看護事業所数は1ヶ所で、日光市全体の高齢化率は33.2%（平成29年10月現在）と在宅医療のニーズはありながらも活用出来る資源が乏しい地域であり、より効率的な医療・介護連携による地域の高齢患者をケアできる体制の整備は急務と言える。

2. 在宅医療・介護連携推進事業について

(ア) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

鹿沼市、日光市医療・介護資源ガイドブックを作成し、配布したことにより、専門職への情報提供や顔の見える関係づくりとして一役を担うことができた。

(イ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

在宅療養支援診療所は少ないが、かかりつけ医であれば訪問診療、往診を行っている病院、診療所がある。住民がかかりつけ医を持つことが必要であるので、住民への普及啓発が重要である。当医師会においても鹿沼市・日光市の医師が合同して在宅医療推進委員会を定期的に開催している。

(ウ) 医療・介護関係者研修

多職種連携会議の開催として、「鹿沼地区の在宅医療と介護を考える会」があり、「日光コミュニティケア研究会」は2か月毎に開催され、それらの会合を元に、顔の見える関係づくりができつつあり、多職種の研修の機会となっている。又、それらの会議を通して、切れ目のない在宅医療と介護の提供、関係者間の情報共有を行っている。

(エ) 地域住民への普及啓発

在宅医療に関する講座を身近なかかりつけ医6名が講師となり、9月19日鹿沼地区、9月28日南摩地区、9月29日押原地区、11月14日日光地区、11月17日藤原地区、11月28日今市地区において開催し

た。それぞれ平日にも関わらず、合計416名の住民が参加。多くの住民の関心が高いことが分かった。

在宅医療に関するパンフレットを作成し、鹿沼市、日光市に全戸配布し住民啓発に努めた。

3. 今後の課題について

高い高齢化率、独居高齢者世帯、老々及び認々介護世帯、かかりつけ医のいない高齢者の増加といった課題に対し、当コミュニティにおけるサポート体制の構築は急務である一方で、24時間というイメージからか？医師の参加は低調である。実際に届け出のある在宅支援診療所Ⅲが4医療機関のみで、強化型体制は無い状態。又、在宅療養支援病院として声を上げる医療機関の参加も少ない状態である。地形、気候といった要因もあろうが、当地域における医療・介護連携をより効率的に行う為には、『どこでも連絡帳』や『とちぎ医療情報ネット』といったICTツールの活用は不可欠と考えられる。今後、こういったツールを活かして、在宅医療を担う、医師・歯科医師・訪問看護師・薬剤師・ケアマネージャー及び家族との連携を図り、病院医師・看護師・MSWとの連携を模索する必要がある。行政・病院・医師会が一体となり地域包括ケアシステムの実現を他地域と同様に整備していかなければならない。

